

免許状教科	中学校 1 種（社会）・高等学校 1 種（地理歴史・公民・商業）		
科目名	教育相談の理論と方法	科目分類	教職科目
			経済学科 ■必修 □選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	School counseling : Theory and Practice	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
ふりがな	みつだ もとお	修得単位	2単位
担当者名	光田 基郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用
授業のテーマ	教育相談と学級を担当する全ての中高教員は個々の生徒にカウンセリング的に対処する技能が必要である。例えば（１）女子中学による同級生いじめの主導者に内面的な変化を期待して最初から叱らず、「甲斐順子さんは怪獣の子だから殴った」等の暴言にも「それで」、「そこでどんな気持ちだった」と受容的に傾聴し、共感的（同調でなく as if の姿勢）に対応し。そこで否定的な気持ちを全て出尽くすほど話させてから、被害者への暴力が恥で幼稚だと自覚・反省させ、被害者の無力感、不全感に共感させて、加害生徒の内面からの態度変化の実現と成長促進とを目的とした指導が教育相談である。（２）「生徒指導」は、学校側から全生徒を対象に自律と社会的技能の成長促進を指導し、その阻害となる行為の予防及び具体的問題解決の夫々の指導が目的となる（文科省；生徒指導提要）。（３）生徒指導の手段として上記の相談的な視点から共感性と自己決定を目指す「教育相談」の理論と実践の技術が教員に必要であり、上記の教育相談の基礎的な知識・技能を学ぶ。		
到達目標	上記の例では、生徒の話を受容的に傾聴して共感的（as if ）な視点で物事を見る際は、「なるほど、怪獣の子のイメージと同級生の彼女を勝手に重ねての暴力か」と理解しながらも「暴力は恥だぞ」と怒る自分の本心とカウンセラー役割との重心に言葉を与える努力を重ねて、加害者を決定的に嫌わず、当初に予定した面接の時間内は彼女に話させて、その対人関係の自発的な改善を期待出来る様に、カウンセリングの応答訓練や生徒世代の知的・情緒的発達の勉強を重ねる意欲向上を期待します。		
授業概要	教員は個性と平等のバランス、理想と現実のバランス感覚が必要。例一中学の授業で任意の動画作成を指示したらツッパリ男子生徒が稚拙でひびいた動画を描いたが、教員は手伝って作らせた。直後に「教員としての自尊心が許さないから君の作品だけは公開禁止。見たい者は実技時間終了後に個人的に見せてもらえ」と指示。女生徒も含めてクラスの大勢が集まってこの画像を見た時間の終了時、この生徒は初めて皆と同様に一礼後、大勢と一緒に退室。以上は教員とツッパリの自尊心にも配慮した選択とその緊張を述べた20年前のブログである。「そこまでしなくても」と中学若手女性教員の意見もあった。以上は電算実技への参加促進と、教員自身、ツッパリ生徒も含めた全員の自尊心維持努力の例であり、同様のストレスコーピング、うつ病尺度、達成動機検査やカウンセリング訓練などの実技併用で「教育相談」の基本を理解して教育実習に備える。		
授業計画			
第1回	教育相談の課題：青少年に上記の心情的な態度変化を求める際は、「不服従は処分」等の強制でなく、限られた面接時間内に言葉で共感的に対応して話を続けさせ、当該の青少年とその周囲の人の態度を変化させる工夫を重ねる必要がある。教員が茶髪を改めない生徒の母親と口論寸前で、この母も高校時代に教師から当時の茶髪生徒であった今の母親もその母親のしつけも非難された記憶から教師嫌いまで今日に至った経緯を話した時に、「校則が不快と感じたのですか、なるほど」と共感し、信頼を得るきっかけを得たなど、相手に信頼されねばならない。指導で信頼と共感を得て学校や部活指導者の言い分を生徒や保護者に段階的に伝えるため、信頼関係が第一歩である事の理解が必要。各自のパソコン・スマホで高校野球やラグビーで突っ張り生徒が自尊心と信頼と共感を回復した実例を知る。		
第2回	人格発達1:信頼関係は人格―行動―学習の連鎖の視点で人格発達の過程を学ぶ。乳児期は無条件の依存を経験し、空腹感、不安感を表現した時に母親とその代理者に対処してもらえた経験から外の世界を信頼して働きかける基本的信頼感を学び、自己不信・他者不信を予防して言葉でのコミュニケーションの世界に進む過程が発達課題となり、失敗は無力感・不全感とDVD併用で学ぶ。幼児期の課題は意思表示・自己主張と自己抑制のバランスと述べる。ドラえもんのジャイアンはわがまま―劣等感―自己顕示―暴力、スネ夫は意思表示拒否されていじめ―劣等感―自己顕示欲―非行追従と強者の顔色を見て弱者いじめなどドラえもんの登場人物全員が発達課題の未達成と知る。		
第3回	人格発達2：学童期は劣等感と自尊心のバランスが課題、思春期は明治維新同様の内外の変化（侍経済に代わる豪商の資本主義は性的成熟に、黒船が外交を迫る事態は自己像確立の必要性に夫々対応）自分とその内外の変化		

	に耐えて自己像構築が課題。ドラえものの出来杉もしずかちゃんも良い子のイメージを自分で否定する「思春期の危機」での拒食や自己破壊、カルト依存の家族拒否候補者と概説。のび太の逆である意思表示（強情）－羞恥心－独立欲求－批判が健全ゆえ、登場人物全員が乳児期からの発達課題の達成不十分な状態の誇張と指摘する。
第4回	人格発達3：学童期の課題が未完成の行動ルールは自分の好悪でいじめ（本能水準）と損得（自我水準一皆の雰囲気と同調でいじめ）で「同級の甲斐純子を怪物の子と言って殴れば恥」と自己制御せず。学童にルールや生活の知恵を教えた大人や友人集団不在。教員も父親も無力化。争いや共感を経験して自分の生き方を学ぶ筈の学童期は母に依存で思春期入りと概説。実技はエゴグラムを予定。
第5回	人格発達4：温室育ちで子どもらしい有能感を傷付けられた経験を重ねず、現実の自分を立て直す方法（秀才の自己像と目標を修正、方法改善、点取り虫よりも楽しく学ぶ工夫）を知らず、自己制御不能で切れる、他人に責任押し付けや弱者攻撃、引きこもり⇔挫折や諦めの経験を重ねてストレス対処を学ばねば、次の思春期の課題に対処不能と指摘する。ネットで社会的知能（EQ）検査実施。
第6回	人格発達5：思春期までの子は愛情依存、さぼりや非行をすれば親兄弟、教員などよくしてくれた人の愛情を失う恐れから優等生を目指す、思春期以後は周囲の人の愛情や承認を求めて頑張るのでなく自分で納得して決めた事に努力（自己依存）する。この過程で愛情不足と誤解したら自己破壊、悪人やカルト依存での家族拒否では自立心での家出でない。実技はうつ病尺度を予定。
第7回	人格発達6：信頼をベースとして、話を聞く姿勢、認め合う姿勢を子どもの中に作り出す必要。担任が周囲の理解を得て乱暴な子も大切にすれば誰も彼を本気で排除しなくなる。ここで個性と平等のバランス感覚が必要。下手な先生は自分だけで対処して「Tをのけ者にしたら罰する」などと言うから、Tは先生が守らねば動けない無力な子のイメージを持たせる。実技はストレス耐性検査予定。
第8回	人格発達7：子どもの描いた家族画のDVD併用で、学童と思春期の課題としての家族像の概説。家族は相互作用システムであり、その人間関係は社会一般の人間関係と共通であるのが普通。学者一家で、勉強の不出来な子を悪者にして安定する関係も。3人の子で秀才以外の不出来な子が建築士を志して反対され家を出た後、秀才の姉さんが不純異性交遊。この家の規範は世間一般と異なるゆえ、文化の衝突でメンバーの自己像形成によくない結果と説明する。
第9回	集団内の対人関係について「敵の敵は味方」と言う形で3者関係が掛け算してマイナスなら不安定。バランスに向って行動が動機付けられるゆえ、複数の敵を作れば集中攻撃の目標と概説。集団内の不安と不信の学級では誰かの弱点を全員で滅多打ちして面白がっていないと落ち着けない。これがいじめの基本、人間関係を変える必要性を指摘。談合と競争関係の実験も予定。
第10回	人格の理論として（a）人格の類型（クレッチマー、ユング）（b）人格の特性（キャッテル、アイゼンク）（c）DVDも併用して人格発達段階（ハビガースト、コールバーグ、フロイト）を概説。本能は水の落差、自我は本能制御のダム・水門に、超自我は水の用途に相当。本能は善悪と無関係で自我の制御機能次第と説明。
第11回	発達障害と教育相談：知的発達遅滞、聴覚障害及びそれ以外の教育支援が必要な学習障害、注意欠陥多動障害及び高機能自閉症についてDVD併用で解説し、発達障害の理解、周囲への支援と二次的障害予防を概説する。
第12回	不登校：個々の不登校が何のサインかを検討し、教員が焦らずに保護者と当該生徒に信頼され、学校や教育委員会の助言や支援を受け入れる条件作り及び、当該生徒には、たとえ勉強が遅れても一生傷にはならないから、今の時間をしっかり生きると見守る工夫を強調する。他の支援と連携、学校環境が当該生徒にどう受け入れられたか（小4で友人関係、高2までに同性の親友や「斜めの関係」のヤングアダルトのモデルを得たかなどの視点も強調し、ネット上の虚像依存を警告する。
第13回	非行：上記の発達課題の理解及び、どう対処するかを考える意欲と、自分と当該生徒との関係で何が出来て何が出来ないかを考えて諦めて他の専門機関に任せる勇氣も必要と説明。非行者は言葉でコミュニケーションが不得手で、弱い自我を守る努力にエネルギーを費やすのに瀬一杯の現状、彼らの不幸な過去を消せないが言葉で振り返らせ、反抗させない工夫を教員に考えさせる。幼児のプレーセラピーで、「積み木を私に投げないで人形に当てる」など。
第14回	集団生活を楽しめない子と学級崩壊：上記の高校ラグビーの例では、プレーヤー以外の体重28キログラムの生徒も入部させてジャージーのデザインなど、どの子にも活動の舞台を保障する。侍ジャパン優勝のメンバーに同一のプロ3軍球団出身者が2名いたが、このチーム指導者が打撃練習投手を務めて選手に期待、1軍に推薦する例など指導者の態度を指摘する。
第15回	ソシアルスキルトレーニングなど実技を通じて、教員の自己肯定感向上の基本を知る。さらに自分から挨拶して人の輪に入る努力及びgive and take の関係作りの意味を強調する。前週から続けた風景画・人物画など描画実技でその内容に投影された自己像の意味を指摘して実技と映像の活用を勧める。
第16回	定期試験
授業時間外の学習	人と一緒に考える工夫を学んで下さい。積極的に課題と取り組み、考えて答えを探す工夫を怠らない者は必ず良い結果が出せます。夜22時の秋田大図書館閉館時でも休日の県立図書館でもノースアジア大や聖霊短大での受講生によく会いました。その数名は現在、県内の栄養教諭、岩手等の中高教員や秋田大院生

	です。
履修条件 受講のルール	特にありません。教員採用試験問題集や各県去育委員会の HP を見て、現在の自分と採用試験の出題内容、教育現場の現状との差を埋める工夫を重ねれば道は開けます。警視庁の採用試験でも「真実」について 600 字の小論文を書かされ、面接でその内容を質問された人もいます。日頃から、文章表現能力を鍛える努力と、アルバイト先、ボランティアなどで人から学ぶ努力を・・・。
テキスト	使用しない。毎週パワーポイント 12 コマの資料をポータルに常時置きます。ネット上の採用試験問題 (skyosai com)、心理統計自習 (http:// kogo lab.chillout. jp/ elearn/hamburger) などスマホやネット上の無料自習教材も適宜 紹介。多忙でも、時間とネットの情報を上手に使えると効率的に勉強出来ます。
参考文献・資料	適宜、指示します。各県教委、特に首都圏教育委員会の HP に採用試験問題及び面接での試問内容 (学習指導要領などが記載されています。現場での指導案のモデルも岩手県教委など、各県教委の HP にあります。自分自身が出身中学や高校の実習生になった気でよく読んで実習に臨めば生徒にも信頼されます。
成績評価の方法	※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。教育実習中に民間への就活セミナーやアルバイトなどを理由に欠席すれば、教職志望の意欲を疑問視されて厳しく減点されますから、実習と授業での出席数及び、ポータルに記載された大学からの連絡は必ず確認して下さい。
オフィスアワー	火曜日の 1 限と 3 限の講義以外、最終のスクールバスの時間までは研究室に在室予定。
成績評価の基準	秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)
学生への メッセージ	大学を上手に利用して社会に出る準備を重ねて下さい。目標を決めて、具体的に計画・準備した人は社会で認められます。目標だけでは無意味な願い事。具体的計画と準備を重ねれば人並み以上の結果を出せます。